B.LEAGUE
まちづくり委員会
2024-25

B.LEAGUE クラブが公民連携で目指す

「B.LEAGUE × まちづくり」ビジョンマップ

— 感動立国の実現を目指し、B.LEAGUE クラブと夢のアリーナがもたらすワクワクする非日常を日常へ —

事例集

「B.LEAGUE × まちづくり」事例集　目次

ココロ、たぎる。B.LEAGUE

Bクラブが全国各地で取り組む、公民連携によるまちづくり事業の実践的な事例集

「B.LEAGUE × まちづくり委員会」では、全国の先進事例を有識者とともに整理・可視化してきました。
本資料では、委員会で共有された参考になる実践例を、自治体職員の皆様の声も交え分かりやすく紹介・解説しています。
まちづくりを担当する自治体職員やクラブ関係者にとって、実践に役立つヒントが詰まった一冊です。

P3

秋田ノーザンハピネッツ
みんなのテーブル（こども食堂）

P6

秋田ノーザンハピネッツ
道の駅 岩城「アキタウミヨコ」

P9

茨城ロボッツ
まちなか・スポーツ・にぎわい広場（M-SPO）

Coming soon
茨城ロボッツ
水戸ど真ん中プロジェクト（M-PRO）

Coming soon
茨城ロボッツ
M-GARDEN

P13

川崎ブレイブサンダース
THE LIGHT HOUSE

P17

川崎ブレイブサンダース
カワサキ文化会館

P20

シーホース三河
三河安城交流拠点・第三世代アリーナ

P24

佐賀県
SAGAアリーナ

P28

琉球ゴールデンキングス
キングス商店街

P32

長野市
キッズドリームデー

P35

長野市
未来ハッ！ケンプロジェクト

P38

ベルテックス静岡
THINK SHIZUOKA

P41

ベルテックス静岡
東静岡アート＆スポーツ／ヒロバ

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

事例

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課
- ✓ 子育て
- ✓ 福祉
- ✓ 農業

秋田県で“初”、『国内のプロスポーツチームでも初』となる 常設の子ども食堂

誰でも安心して過ごせる 第3の居場所事業

県民球団として 企業を巻き込むチカラ を活かし持続可能な活動に

みんなのテーブル（子ども食堂）
秋田ノーザンハピネッツ

「みんな」で育むテーブル
テーブルを「みんな」で囲み、食事をする事で、こどもたちの「おいしかった！」「たのしかった！」の笑顔を作り、居場所となることを最大の目的としています。

日替わりメニュー
メニューは毎日日替わりです。地元秋田で採れた新鮮な素材を使い、みんなが笑顔になれるようなごはんを作っています。

Keyword！ #子ども食堂 #居場所づくり #ひとり親世帯支援 #持続的な社会課題解決

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

課題先進県で広がるひとり親家庭の収入格差

- 車社会の秋田県で維持費等により、食費が切り詰められ栄養不足の子どもの存在を知る
- スポーツクラブの管理栄養士が、健康でいるための食事を提供することはできないだろうか？

ビジョンの構築・共有

県民球団として“地域のハブ”となり、秋田の未来づくりに貢献

1. 子どもたちの笑顔を中心とした地域コミュニティを築く
2. 全てのプロスポーツチームが模倣できるように「みんなのテーブル」をモデル化する
3. その他のこども食堂で持続的な運営が可能になるよう、秋田ノーザンハピネッツがハブとなり、食材・備品寄付の仕組みを構築し運営費を抑えられるよう支えあう
4. 行政や社会福祉協議会等とも連携し、対象世帯へ開催情報を周知

PoC

“支援の輪”を広げ、持続可能な運営を支えあう

- 全国から全25社が食堂運営費を支援。内3社はバスケットボール事業には関係ない支援
- 寄付を受けた“規格外の野菜”を中心に、管理栄養士が栄養素を考え日替わりでメニュー提供
- 秋田市以外でも、出張子ども食堂を1か月に1回程度実施（由利本荘市、にかほ市）
- 地元調理師会と連携。季節のイベントを開催し、利用の敷居を低くする工夫

事業開発

“地域連携”により、子どもたちの笑顔を中心とした地域コミュニティを築く

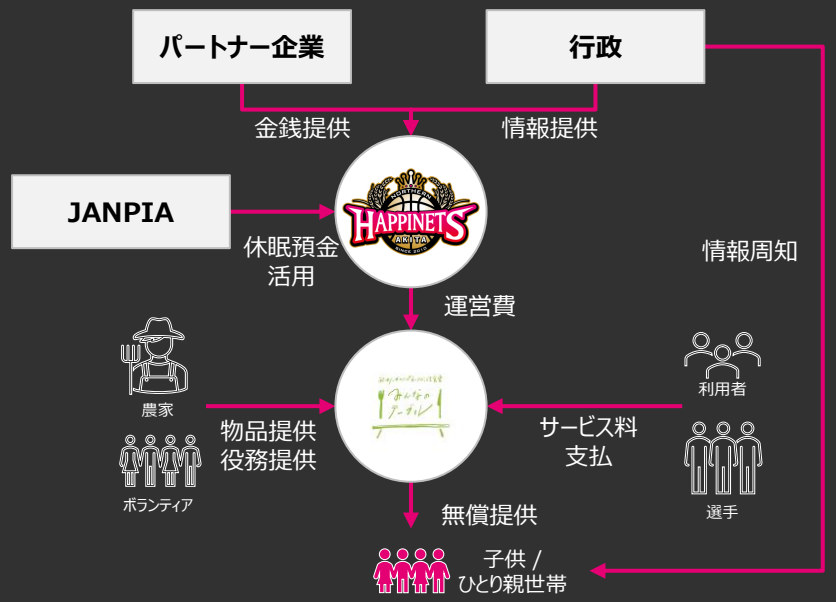
- 高校生～70代までの幅広い地域の方が、約40名ボランティアとして活動
- 秋田市と連携し児童扶養手当受給世帯約2,500世帯に専用の無料招待チラシを配布
- 所属選手やスタッフなども、子どもたちや地域の方との触れあう貴重な場になっている
- ホームゲームでもフードドライブを実施し、食材や本の寄付を募り持続可能な運営に繋げる

事業育成

クラブが“課題と課題”を結び付け、新たな価値を創造

- 障がい福祉施設と連携し、耕作放棄地の畑を整備。地元小学校の授業の一環として、野菜の苗植え体験等を通して、子ども食堂の食材となる野菜を栽培
- 秋田ノーザンハピネッツが運営する「秋田あくらビール」の、ビール醸造過程で出る“麦芽カス”を乾燥させ、畑の肥料として使用。産業廃棄物削減効果もある

実施スキーム



活用制度

- 休眠預金活用事業
- ひとり親世帯などへの情報共有

施設概要

- **住所**：秋田市広面字釣瓶町140-1
- **営業日・営業時間**：毎週火・水・金・土の週4日　16:00～20:00
- **利用対象**：どなたでもご利用いただけます（予約優先・中学生以下無料）

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

**秋田ノーザンハピネッツと共に、地域全体で支えあい
温かく見守る子どもたちの第三の居場所**

「企業を巻き込む力」を地域で支えあう力に

パートナーからの食材寄付（豚肉）を、県内の子ども食堂へ順番に無償で提供。
これを仕組化することで、持続可能な子ども食堂運営を支える

他事業とのエコシステムを構築

①クラブ他事業のパン運搬時の納品BOXを活用し規格外野菜を集荷

②産業廃棄物を畑の肥料として再利用し、野菜を育て食材活用

「辞めない覚悟」で持続的な運営を継続

地域のひとり親・未来を担う子どもたちを食事を通してサポート。
地域やスポンサーとの連携など、活かせる仕組みを活用しながら事業を継続

実現までの課題・失敗談

1.利用者への周知
ひとり親等の対象世帯へ、情報周知することが難しく、自治体との連携が必須だった

2.エコシステムの構築
安定的に運営を行うため、規格外野菜等の食材寄付を集め、集荷や再配分ルートを確立するまでに一定の時間を要した

3.専門人材の確保
飲食を伴う事業のため専門スキルが必要となり、プロスポーツチーム運営とは異なる採用が必要。またボランティアのサポートも必要

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

試合会場では対戦相手のファンからも食料寄付があり、多くの人の心を動かす活動に

企業を巻き込むチカラ

全25社もの企業から協賛や食料寄付などの継続的な支援を獲得。持続性を確保

現時点での成果

1.ひとり親世帯の利用者数増加
オープンから12,528人（4,892組）が利用（24年9月末まで）

2.県内の子ども食堂数の増加
2年間で22カ所から33か所に増え、「あきた子ども応援ネットワーク」との連携を通じて、これまで10,000点以上の食糧支援を届けた

3.広がる支援の輪
運営支援企業25社。350を超える個人団体からの寄付があり、持続可能な運営体制が構築

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課
- ✓ 子育て
- ✓ 福祉
- ✓ 農業

“スポーツと地域が融合した秋田の新しい交流拠点”

道の駅 岩城「アキタウミヨコ」
秋田ノーザンハピネッツ

地域名産品の販売や魅力発信拠点を 指定管理運営

企画力・集客力 を発揮して、地域活性化 に貢献

県内外からの来場による賑わいの創出 により 交流人口の拡大 を図る

商店 / 直売所
地元の新鮮な野菜や秋田の特産品、お土産の販売

レストラン
食堂/スタンド (アイスクリーム屋)/ピロティ (軽食屋)

温泉（港の湯）
日本海を一望できる温泉施設

オートキャンプ場

コテージ

Keyword！ #交流人口 #指定管理 #地産地消 #コミュニティ #交流拠点

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

地域コミュニティを築き、秋田の未来づくりに貢献する

- Bクラブが生業で培った、コンピテンシーが域内外の交流人口の拡大に活用することが出来るのではないか？
- 特に地域内外から人を集める集客力や発信力が、道の駅運営と相性が良いのではないか
- クラブとして事業化している、ビールなどの飲食事業との相乗効果があるのではないか

ビジョンの構築・共有

Bクラブと連携した産業振興

由利本荘市観光文化スポーツ部観光振興課施設班とのコミュニケーションを通じて、事業検討を具現化

① コンセプトの明確化
② コンテンツの強化
③ 運営スタッフの強化

PoC

地域に根差した収益事業モデル化

- 多彩なコンテンツの魅力を磨き、クラブの広報力も活用し積極的に情報発信

①コンセプトを明確化しブランディング
②コンテンツの強化
ー直売所・売店・レストラン・スタンド等のリニューアル
③積極的なクラブイベント実施

事業開発

まちづくりと地域活性化の仕組みづくり

- まちづくり事業や地域活性化を担う、「ANHソリューションズ株式会社」（100%子会社）を設立
- 専門人材を採用し、試合運営ノウハウと施設運営のノウハウを掛け合わせる仕組みを構築（横展開可能なモデル作り）

事業育成

「リアルな価値体験」を加え、人が集う事業を展開

- BBQ施設、温泉施設、宿泊施設など、既に「道の駅」機能以上の施設力に加え、選手との交流イベントやグッズ販売など、多くのファンのニーズを取り込むコンテンツも拡大
- 既存のコンテンツにクラブの広報発信力を加え、施設や地元産品の魅力をさらにPR

実施スキーム

活用制度

- 指定管理者制度

施設概要

- **住所**：秋田県由利本荘市岩城内道川字新鶴潟192-43
- **営業時間**：9:00～20:00（施設による）（ 休館日／第２水曜 ）
- **Tel**：0184-73-2700

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

地域の食・文化・スポーツが融合した施設

利用者数が増加 公共施設が活性化

プロスポーツクラブが自治体から指定管理を受けて、公共性の高い交流拠点（道の駅）を運営。

ハピネッツファンも訪れ施設に賑わいが戻った

企画力・広報力で複合収益化

施設運営だけではなく、企画力を活かし新コンテンツを次々に開発。直売所の「アサパラ」（朝採れアスパラガス）など次々にヒット商品が誕生した

「アキタウミヨコ」の新たなファンづくり

秋田ノーザンハピネッツの選手との交流イベントは、ビーチクリーンナップ等による新たなアプローチで誘客。クラブとの相互総客から着実にファンを増やした

運営上の課題・失敗談

1. 突発的な自然災害や施設老朽化に伴う修繕費の発生
2. 光熱費・人件費等の高騰
3. 指定管理受託決定からオープンまでの期間の短さによる準備不足

運営面の工夫を行い利用者数を順調に増やすものの、施設老朽化や突発的な豪雨による雨漏り被害が発生してしまいました

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

クラブが持つ集客力・企画力を活かし、利用者をV字回復させた

行政と共に突破するチカラ

行政サービスの重要拠点となる「道の駅」をクラブが運営。運営の質を向上させた

現時点での成果

1.秋田県内人気上位に
秋田県内道の駅人気投票で、第5位を獲得/全34駅中　（秋田魅新報）

2.利用者数も大幅に増加
前年度比137%となる約37.5万人の集客を達成

3.ヒット商品の誕生
直売所の「アサパラ」（朝採れアスパラガス）、軽食コーナーの「ジェラート」は人気商品となった

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課
- ✓ 都市計画
- ✓ 公園
- ✓ 商工観光

記憶に残るふるさとへ。
水戸のまちなかににぎわいを。
未来に繋ぐまちづくり。

まちなか・スポーツ・にぎわい広場（M-SPO）
茨城ロボッツ

1993年のデパートの撤退以来、時が止まっていた水戸の“ど真ん中”の、

遊休資産（空地・廃墟）に、2017年9月M-SPOがオープン。

中心市街地活性化 の核となる、にぎやかな空間として 公民連携で整備

南町自由広場
「子どもの記憶に残る街なかをつくりたい！」
その思い一心で目指してきた広場の芝生化

ユードムアリーナ
バスケットボールのユース・スクール拠点の他、
選手の個人練習で使用。
各種イベントや街の体育館として一般貸出も実施

M-SPOスタジオ
グロービス水戸キャンパスなどを定期開講。超高精彩透過型ウィンドウLEDビジョンを設置し、街の映像メディアとして活用

みんなのトイレ
誰でもご自由にご利用いただける「市民トイレ」

コインパーキング
収容台数50台の大型コインパーキング

M-SPO TERRACE BLUE×BLUE
オープンエアーな新スタイルカフェ＆バル

Keyword！
＃中心市街地活性化 ＃遊休資産（空地・廃墟） ＃企業版ふるさと納税 ＃コミュニティ・交流拠点

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

24年間空地・廃墟となっていた水戸のど真ん中をロボッツが原動力となり、スポーツを活用して生まれ変わらせる

- 空地を開発し、施設とイベントの力で人流を作り、飲食・商店街のにぎわいを作る
- 子どもが行きたくなる遊具を設置した芝生広場を作り、「家族」で賑わう構図を作る
- 子どもたちの記憶に残るふるさとをコンセプトとした『まちなか』づくり

ビジョンの構築・共有

「街のリビングスペース」として、ライフスタイルをデザイン

- 近隣にある水戸市市民会館整備等とも連動した、まちづくり拠点の開発
- 茨城ロボッツをキーコンテンツとして街のコンセプト作りを提案
- 「物語の設計力」と「夢の共有」により、多くのステークホルダーがビジョンに共感

PoC

M-SPOを「地域住民に根差した」パブリックリビングへ

- オープンテラス式のカフェ施設を市内でも先駆けて開業。スポーツファン以外の幅広い層も気軽に立ち寄れる空間を意識し、地域住民の方を対象とした招待イベントを企画
- 地域の子どもたちと選手による共同の芝生広場の整備をおこなうイベントや、スクール運営、公園遊具の利用などを通じて「愛着を育む」ための交流拠点を目指した
- 地域住民が「街に出かけたくなる」ためにロボッツとしてのコンテンツとネットワークを最大限に活用

事業開発

「日常使い」・「イベント利用」多様なニーズで利用可能な事業

- ロボッツの公開練習（一部）やバスケスクール、パブリックビューイングなどバスケットボールチームと接点を増やす事業を開発し、M-SPOの敷地内で実施
- 多目的スペースを活用し、チアダンススクール、高齢者向けのヨガスクールなど、ファンだけではなく、地域住民の方向けのサービスを開発。誰でも利用可能とし、一般貸出しを実施

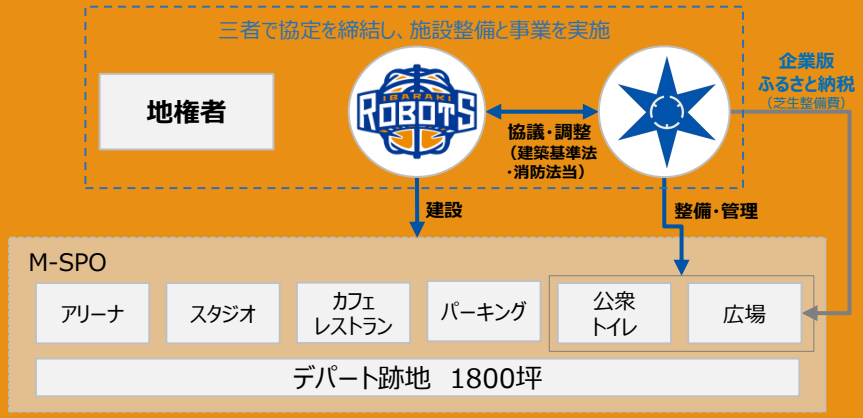
事業育成

非日常の連続が、いずれ日常に。さらなる交流拠点化へ

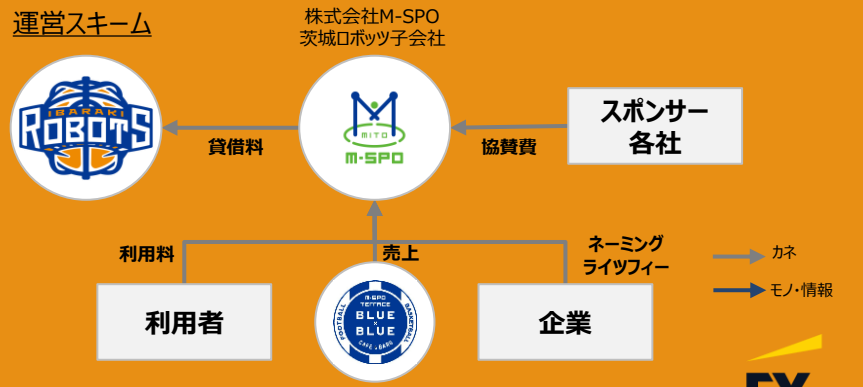
- テラスに屋根などの覆いを付け、全天候・全季節に対応可能とし、実験的にベンチを設置するなど継続的な環境の整備
- 複合的な収益モデルを構築し、活動やサービスの拡大を目指したプログラム開発
- 広場と施設を活用したイベントを連続的に実施する運営組織開発を目指す

実施スキーム

建設スキーム



運営スキーム



施設概要

- **住所**：茨城県水戸市南町3丁目6番8号
- **営業時間**：14:00～20:00
- **アクセス**：水戸駅徒歩20分、車5分

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

24年間空き地だった場所に、茨城ロボッツを核とした交流拠点を整備。子どもたちの記憶に残るふるさととして『まちなか』の賑わいを創出した

水戸のライフスタイルを変える

駅とアリーナの中間地点にM-SPOが誕生。

都市の衰退とともに中心市街地から姿を消していた子どもたち笑顔が戻り、商店街にも、親子が立ち寄れる新しい店が増え活気を取り戻しつつある

子どもたちの記憶に残る「まちなか」をつくる

スクールやユースの拠点機能だけでなく、選手が個人練習でも活用。

日常、非日常のどちらでも利用可能な、次世代を担う子どもたちにとって、ワクワクする場所、憧れの場所に

理想的な公民連携と役割分担

広場や公衆トイレなど市民が一般利用するスペースは水戸市が整備・管理を行っている。

茨城ロボッツは多世代交流を促すソフト事業を運営。企業版ふるさと納税集め等にも積極協力

実現までの課題・失敗談

1. 日常的な賑わいづくり
施設整備がゴールではなく、日常に賑わいを取り戻すことが重要。命を吹き込むコンテンツ磨きや事業戦略と運営組織が必要

2. 街中や茨城ロボッツとの融合
水戸市全域に賑わいを生むためには、周辺店舗などと一体的なまちづくりが重要。強固な信頼関係づくりが課題だった。Bリーグオールスターを誘致し、M-SPOを拠点に地域を巻き込んだイベントを実施できたことがさらなる関係性の転機に

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

24年空地だった場所に、M-SPOを整備。市民、地域、団体などの共感を産み、多くの方が利用する空間に

行政と共に突破するチカラ

水戸市とビジョンを共有し、協議を重ねた。できること、出来ないことで役割分担。広場の整備と公共利用のトイレ等は水戸市が管理運営

現時点での成果

1. 日常的に市民が集う施設に
開業以来、多くの市民が集まる賑やかな空間として定着。遊具やベンチの設置後は世代を超えた街のオアシスとなった

2. 市内有数のイベントスペースに
パブリックビューイング等のクラブイベントで積極活用。マルシェなどの活用も

3. 地域経済に貢献
デジタルサイネージを広告看板運用。ビジネスプラットホームとして地域経済界に貢献

Bクラブ初のスポーツまちづくり会社による、遊休地を活用した公民連携まちづくり

茨城ロボッツ代表取締役社長
川﨑篤之

- スポーツクラブによる地域貢献ではなく、地域によるスポーツクラブの活用という視点の違いがユニークネス。物語の設計力を大切に、地域と夢の共有を徹底。
- 市とクラブの役割分担で施設整備。クラブはまちづくり会社を通じビジネスとして事業展開し、企業版ふるさと納税なども活用したサステナブルな運営にチャレンジ。

公民連携のポイント

人材連携

法制度・許認可

財源

土地の所有・管理

施設の所有・管理

運営方針

市民との合意形成

リスク管理

広報・PR

クラブと地域の関係の常識を覆すアプローチ

一般的に、スポーツクラブと地域の関係は「まずクラブが存在し、その後に地域への貢献を模索する」という流れが主流です。しかし、茨城ロボッツの場合はその逆でした。きっかけは、水戸中心市街地の再生を目的とした『水戸ど真ん中再生プロジェクト』。地元出身の起業家であり、現ロボッツオーナーの堀義人氏のリーダーシップのもと立ち上がったこの官民連携プラットフォームでは、「地域が元気になるには、みんなで応援できるアイコンが必要だ」という声が上がり、まちの中心にスポーツを据える構想が生まれました。

日常の中で憧れが自然と芽生える風景

ちょうどそのタイミングで、ロボッツの本拠地がつくば市から水戸市へと移転。地域とクラブの「協創の関係」が動き出し、街のど真ん中の空地を市民の集える場所へと整備する“M-SPO構想”がスタートしました。M-SPOはユース・スクールの拠点であると同時に、トップチームの選手が練習に使う姿が日常の中で見られる場所でもあります。子どもたちが「あそこにかっこいいお兄ちゃんがいる」と話すような、憧れが自然と芽生える風景がそこにはあります。

ただの施設にとどまらない「共創の場」としての価値

さらに、芝生化プロジェクトでは選手と地域の子どもたちが一緒に作業を行い、ただの施設ではなく、思い出と愛着が重なる「共創の場」としての価値が育まれています。Bリーグオールスターやパブリックビューイングでは1,000人規模の人が集まり、中心市街地に人の流れと熱量を生み出すロボッツの存在は、今や街の活性化に欠かせないコンテンツとなりました。

ロボッツの挑戦に街ぐるみで伴走

水戸市もロボッツを「まちの大切な地域資源」と位置づけ、商工会議所や観光協会、商店街、経済団体など多くの地域プレイヤーとともに、ロボッツの挑戦に伴走しています。2021年のB1昇格時には、国道からM-SPOまでを舞台にパレードを実施。この運営には地元団体のリーダーに加え、国・県・市・警察までが一体となって関わり、「街ぐるみで祝う」風景が実現しました。

街は、ロボッツを使うことで一つになれる

このような確かな関係性は、困難を乗り越えてM-SPOを整備し、街の変化を目に見える形で示せたからこそ生まれたものだと感じています。ロボッツは市民のためにある。街のためにある。そして街は、ロボッツを使うことで一つになれる。そのメッセージを、これからもM-SPOから発信し続けていきたいと思います。

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課
- ✓ 子育て
- ✓ 福祉
- ✓ 教育

こどもの未来を明るく照らす“道しるべ”
「こども第3の居場所」

THE LIGHT HOUSE （ザ・ライトハウス）
川崎ブレイブサンダース

ホームタウンの社会課題を 遊休施設 を活用して解決

将来の選択肢を増やす、バスケットボール以外の多様なコンテンツも充実

地域の子どもの笑顔が自然と集まる サードプレイス

プログラミングゲーム

バスケ放映

バスケットボールコート

マンガコーナー

グッズ販売コーナー

Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

Keyword！ #子ども食堂 #居場所づくり #ひとり親世帯支援 #持続的な社会課題解決

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

川崎区の貧困問題、サードプレイスの不足

- 「&ONE」活動（ SDG s プロジェクト）を通じて、ホームタウンである中原区におけるこどもたちが放課後を安全に過ごせ、運動もできるサードプレイス不足を認識
- 子どもの貧困問題（体験、学習、食事）の複雑さを知る

ビジョンの構築・共有

バスケットボールも出来るこどもの「第3の居場所」

- 東急不動産株式会社より高架下の利活用提案を受ける
- ホームタウンのこどもたちを取り巻く課題を解決する場として、活用を検討
- スポンサー企業や行政との連携体制を構築し、実現すべき場所の具体化を進める

PoC

早期から地域行政と連携し、解決すべき課題の解像度向上

① 実際にこどもに利用されることを重視し、近隣のこども文化センターや、若者の居場所運営団体に課題をヒアリング
② 安心して過ごせる交流の場
③ 将来の選択肢を増やして欲しい思いから、多様なコンテンツを用意。こどもの成長を促すLフリーバスケットゴール、宿題や漫画を読んで過ごせるスペース、プログラミングゲーム、バスケ放映、月1回程度の子ども食堂等

事業開発

事業計画策定

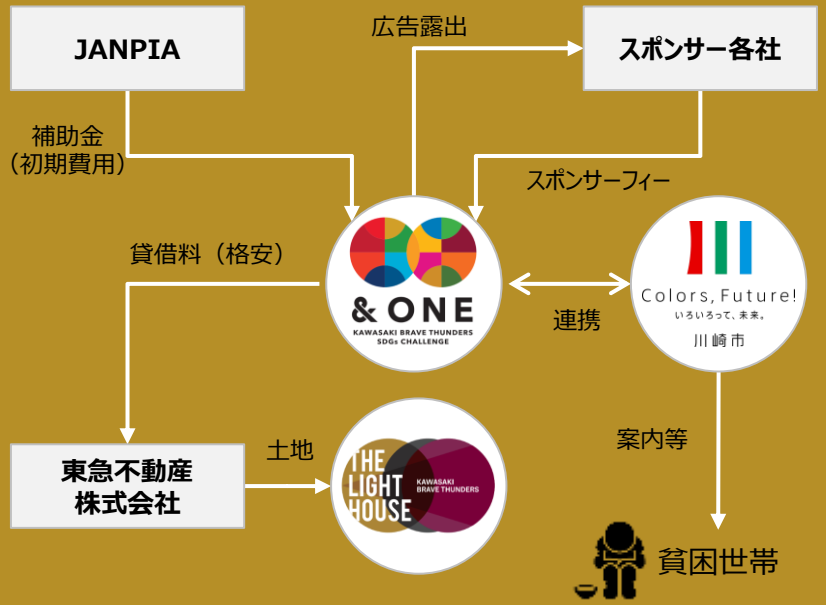
- 小学生から高校生まで、すべての子どもが環境に関わらず利用できる環境を整備
- 休眠預金補助金を活用し、イニシャルコストを1/3に削減
- スポンサーからの支援を受けながら、施設運営や地域貢献活動を実施

事業育成

行政連携によりターゲットへのリーチ力強化

- 子育て・福祉（貧困支援）部署と連携し、近隣の小中学校へ案内を配布
- こども食堂を月に1回実施し、“孤食”や“関係性の貧困”といった社会課題へアプローチ
- 選手やスポンサー連携により、地域企業を巻き込み支援の輪を広げる

実施スキーム



活用制度

一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
休眠預金活用事業補助金

施設概要

- **住所**：神奈川県川崎市中原区新丸子964-7 東急武蔵小杉駅高架下
- **営業時間**：15:00~18:00（平日） 13:00~18:00（休日）
- **子ども食堂**：月に1回実施(第3土曜日 12:30～13:00)

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

クラブ主導の学校以外の場所でこどもたちが一緒に遊び、学び、過ごすことができる「子供の居場所」

安心して過ごせる第3の居場所

スタッフが常駐し、こどもが安全に過ごせる空間を提供。学童的に、幅広い年代と交流や、友達作りのコミュニケーションを支える

子どもが楽しめる多様なコンテンツ

バスケコートやバスケ漫画だけでなくプログラミング体験など複数のコンテンツから好きな時間の過ごし方が選べる「家・学校に続く第3の居場所」

地域課題も解決する交流拠点

“学校もクラスも違う友達とワイワイ楽しく食事ができる場所“で、月に1回「こども食堂」を開催
利用までの心理的ハードルを下げる

実現までの課題・失敗談

1.財源の確保
事業目的を考慮し、利用料金を取らないため財源確保が難しい。

2.民間企業の補助金活用
行政やNPO団体と近い公共性の高い事業だが、株式会社等の企業特性により活用できる財源が少ない

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ
小中高生が安心して過ごせる居場所を提供。地域のコミュニティづくりを支える。

企業を巻き込むチカラ
休眠預金補助金やスポンサー支援を得て運営。社会課題解決に企業と取り組む

現時点での成果

1.小学校低学年が中心に利用
平日30-40人/土日70-80人が訪れ、多い時は、約100人が訪れる

2.新たなコミュニティ形成
スタッフとこどもたちの間に、学童的なコミュニケーションが生まれており、不登校気味だった子どもが、学校に行けるようになった事例もあり

バスケットボールを軸に「こどもの居場所」を創出する

川崎ブレイブサンダース
代表取締役社長　川崎　渉

- 理念に共感し、事業に参画してもらえるスポンサーや行政の補助金探しが重要
- 事業の価値、成果を定量的に示せるKPI設定が重要
- 正しく社会課題を認識するため、現場レベルでのヒアリング、行政との認識合わせが必要

川崎市　こども未来局　青少年支援室
担当課長 大原 芳信 様

川崎市 教育委員会事務局 学校教育部 指導課
担当課長 北村　美幸 様（元こども未来局企画課担当係長）

※立上げ当時に、ご担当されていた北村様にもお話を伺うことが出来ました。（所属は、2025年取材時点）

こどもの未来を明るく照らす"道しるべ"(こどもの居場所)創出のきっかけ

東急さんにて土地の活用を提案いただき、同時期に休眠預金活用事業でこどもや若者・地域コミュニティづくり支援事業への助成金の案内があった。そこで川崎市に相談したところ、行政が運営しているこども文化センターにて体を動かせる施設が足りていないとのことで、川崎のミッションとして掲げている"川崎からバスケの未来を"を体現できる好機と考えた。

運営・維持にあたって

創出費用は助成金にて賄えたが、その後の運営費用は助成されないので、当初は赤字事業と言われていた。しかしながら、地道な営業活動により応援したいと言っていただける企業に恵まれた。また、利用しているこども達が自ら開店や閉店時の片付けを手伝ってくれたり、運営の省力化の積み重ねにより3年以上もの間、維持することができているのは、感謝しかない。

担当者の声～自治体と連携したまちづくりへの想い～

宮脇 栄子 さん

川崎市様には事業立ち上げ時に、地域の社会課題について教えていただいたり、地域連携等でも多くのアドバイスをいただきました。また、参考になる施設へも同行いただき、視察を行いました。そういった川崎市様のご協力のお陰で、3年以上にわたり安定した運営ができております。

クラスや学校、年齢が違っても、ゴールとボールがあればこども達は自然に仲良くなれ、そこにはいつもの仲間の笑顔があり、スタッフが温かく迎える、そんな風にこれからもこども達を優しく照らし、安心できる居場所にしていきたいと考えています。

公民連携のポイント

- 人材連携
- 法制度・許認可
- 財源
- 土地の所有・管理
- 施設の所有・管理
- 運営方針
- 市民との合意形成
- リスク管理
- 広報・PR

スポーツ団体×企業体の強みを活かした居場所づくり

初めにご相談を受けた時は、非常に驚きました。運営いただけるのは有難いのですが、ランニングコストもかかり多くの団体が持続的な運営に苦戦するので。

しかし、その心配もよそに、"行動力"や"突破力"、"地域企業との連携"を活かし、地域を大切にするスポーツ団体らしさと、民間企業の事業力の両面から、現在に至る運営を続けていらっしゃるのは本当にすごいなと思っています。

川崎市の子どもたちのために、学校訪問でのバスケ教室やゴールの寄贈など、一生懸命に活動してくださっているので本当に感謝しています。

北村 美幸 さん

B.CLUBとの公民連携の秘訣

行政もマインドセットが必要。自分の所掌する範疇から少し手を伸ばして、共に考え、時には一緒に汗をかいて。行政としてもできうる限りの応援をするというマインドが地域づくり、まちづくりに必要だと思う。

地域課題やニーズが多様になるなかで、答えが無い仕事が増えてきている。役所で把握出来ていない企業の得意分野や、専門性を理解するためにも学び続ける姿勢が必要。

大原 芳信 さん

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課
- ✓ 文化振興
- ✓ スポーツ
- ✓ 生涯学習

川崎市と連携し 日常の施設 となる文化施設を 指定管理運営

若者文化との融合 により、若者文化の発信と交流を促進

都市型共創施設の先進モデル

若者文化とスポーツが融合する、川崎発の共創拠点

カワサキ文化会館（川崎市若者文化創造発信拠点）
川崎ブレイブサンダース

KAWASAKI BRAVE THUNDERS

Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

ダンス

スケートボード

eスポーツ

アート

バスケットボール

Keyword！ #居場所 #若者文化 #文化活動 #コミュニティ・交流拠点

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

川崎市のまちづくり計画に基づき「日常の施設」をクラブが運営 都市部で不足する若者の居場所や創造の場を、官民役割分担

- 若者が気軽に集まり利用できるコンテンツや施設運営のノウハウ不足
- 民間の企画力を生かした公共性のある施設運営への期待
- 若者文化とバスケットボールのストリートカルチャーの親和性

ビジョンの構築・共有

若者が表現・体験・交流できる都市型文化拠点を核に、スポーツと文化が共存する川崎モデルを目指す

① スポーツやアート、音楽など多様な文化が交わる空間づくり
② 地域に開かれた新たな交流拠点としての位置付け
③ 川崎市のブランド力向上と若年層定着の促進

PoC

多様なストリート・若者文化の融合により、多様なプログラムを提供

- 既存ビルのフロアを改修し壁画アートなど多目的空間を整備
- ダンス・スケボー・eスポーツなどを試験的に導入（クラブ＋地域団体）
- バスケットボールイベント時には、選手も参加（川崎ブレイブサンダース）

事業開発

日常的な文化施設を“Bクラブ”が指定管理者として運営

- プログラム内容の定着と曜日別運営企画の実施（川崎ブレイブサンダース）
- 施設内の各ゾーンで複数ジャンルの活動が同時展開可能に（整備）
- 多様な民間事業者ネットワークを活用し、バラエティに富んだイベントを企画（民間連携）

事業育成

期間限定から日常的へ。新たな若者文化創造発信拠点

- 川崎駅西口再開発事業に伴い施設移転。令和7年9月頃を目標に新施設へ
- 川崎市とも新たに協定を締結し、「川崎新!アリーナシティ・プロジェクト」における新アリーナを含む複合エンターテインメント施設の建設計画とも連携したまちづくりへ

実施スキーム

施設概要

- **住所**：神奈川県川崎市川崎区駅前本町 21-12 川崎第3京急ビル
- **営業時間**： 14:00～20:00 （平日） 10:00～19:00 （土日）
- **マルチパーパスコート利用方法**：予約不要・無料

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

「日常の施設」の1つとなる若者文化拠点（公共施設）を Bクラブが運営するという公民連携の好例

スポーツクラブによる文化施設の運営

体育・スポーツ施設ではなく「日常の施設」となる文化施設を、川崎ブレイブサンダースが主体運営。
若者文化の発信を川崎市と連携して推進

若者の多様な表現活動への開放

ダンス、eスポーツ、ストリートカルチャー、アートなど、プロバスケットボールチームの特徴でもある、「若者文化とスポーツ」の融合を街中に実現

都市再生と地域ブランディングの両立

駅前の立地に新たな滞留を生むことで回遊性とにぎわいを創出し、川崎市の若者文化都市としてのブランド強化に寄与している可能性が高い

実現までの課題・失敗談

1.公共性と事業性の調整
一般開放や自由参加型など公共事業が併せ持つ性質と、民間企業の事業性の調整に対話を重ねた

2.スタッフオペレーション
施設内のカフェで飲食を提供しているが、一度に大人数の利用があるとオペレーションが煩雑に

3.再開発までの暫定利用
駅周辺の再開発までの暫定利用であり、2025年9月に移転が決まっている

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

開業2年弱で5万人以上が利用。多様なコンテンツ提供で、若者を中心に集める。

行政と共に突破するチカラ

市の基本計画に基づく指定管理業務。遊休施設を再生し、若者文化を醸成する

現時点での成果

1.驚異の施設利用者数
開業から約2年半弱で延べ5万人以上。毎月約2,500人が利用。地域に新たな活力と交流を生み、若者に愛される施設となった

2.期間限定から後継施設移転へ
再開発までの暫定利用の予定が、市民からの好評により、代替地を確保のうえ、後継移設が決定

3. 川崎新！アリーナシティ・プロジェクト
DeNAと京急電鉄が推進する新アリーナを含む複合エンターテインメント施設とも連携。一帯的なまちづくり事業の推進が実現へ

B.LEAGUE ×まちづくり

おすすめ
行政課
- ✓ スポーツ
- ✓ 都市計画
- ✓ 市民協働

三河安城交流拠点・第三世代アリーナ構想
シーホース三河

市民の声とまちの賑わいづくりを意識した **第三世代アリーナ構想**

民間主導でのアリーナ建設に **自治体・市民を巻き込み**、ホームタウン移転の機運を醸成

スポーツのみならず、**日常利用による交流拡大** へのアプローチを検討段階から議論

人が動く！

新アリーナ建設予定地は、
三河安城駅から徒歩3分。
施設敷地内だけでなく、
駅周辺も含めた地域を盛り上げることで、
新たな人流を生み出します。

地域が動く！

自在に入れ替えが可能な外周部分は、
店舗、交流の場としての利用も可能。
スポーツ観戦施設の枠を超えて、
地域の人々の手によって発展する
コミュニティアリーナに。

未来が動く！

B.LEAGUE PREMIER参入のためだけでなく、
地域全体の未来のために。
新アリーナプロジェクトの始動によって、
三河エリア全体が動き出し、結束して、
新たな未来へと加速します。

Keyword！ #コミュニティ #交流拠点

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

駅前地域の空洞化・施設不足・市民意見の反映不足などが課題

- 駅周辺の拠点施設が少なく、日常的な交流の場が乏しい
- 子育て層や高齢者が気軽に集まれる場所が不足
- 開発計画に市民の視点が入りにくい構造

ビジョンの構築・共有

市民の声が反映された、地方都市型の交流型施設の実現

- スポーツの稼働を高めるとともに、商業・教育等の地域交流の複合化拠点を目指す
- 地域のニーズをくみ取るべく、自治体・スポーツチームの協働による継続運営モデル
- 構想段階から市民を巻き込み、「自分事」として賑わいを考える仕組みづくり

PoC

行政とクラブが連携し、市民がアリーナを知り、考える場を設定

- 「アリーナのつかい方」公開フォーラム開催
- 市民・行政・専門家混成のワークショップ設計
- 回遊性・災害・子育て等テーマ別議論

事業開発

ワークショップから抽出したニーズを、施設検討や運営計画に反映

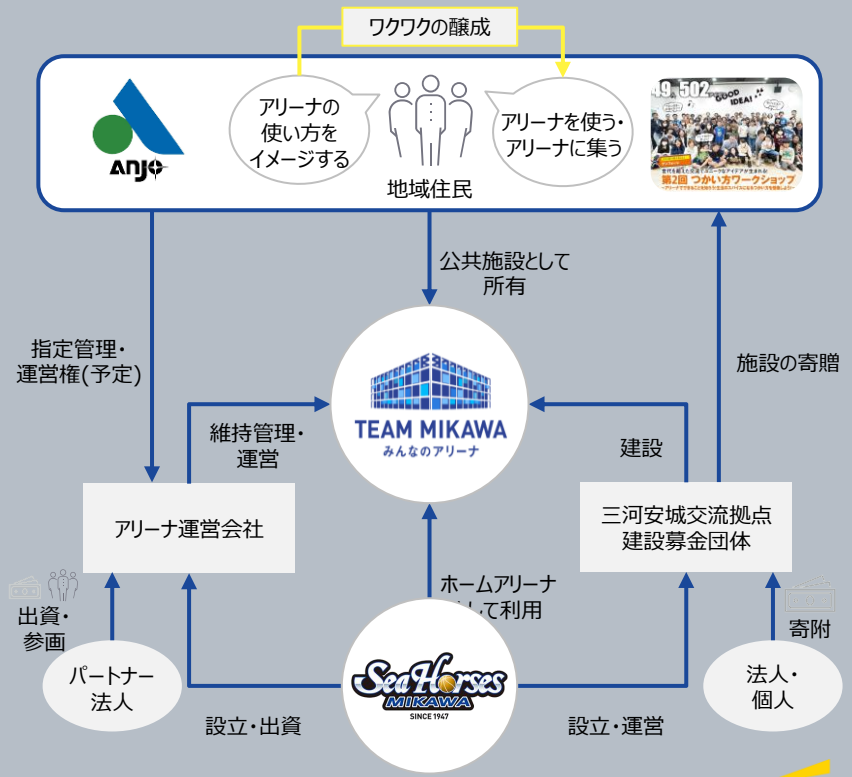
- 使い方、賑わいのイメージを踏まえ、様々な活動のプラットフォームとなるアリーナへ
- アリーナ敷地のみならず、三河安城駅周辺のエリア活用、都市開発へ展開
- 今後はまちづくりを担うコンソーシアムを組成し、産官学連携での共創モデルを構築

事業育成

実装段階に向けた住民参加の継続と、運営への参画体制づくり

- アリーナ開業、ホームタウン移転に向けた市民への意識醸成と検討の場創出を継続
- 運営モデルの具体化において、地域プレーヤーや専門家の更なる巻き込みを実施
- エンタメ興行に依存しない、「第三世代」アリーナとして、自主事業の具体化を推進

実施スキーム



施設概要

- **住所**：愛知県安城市三河安城町 1-11-2
- **所有者**：安城市
- **運営者**：アリーナ運営会社

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

「見る・支える・集う・働く」が一体となる第三世代アリーナとして、まちづくりと共鳴

民間主導による公共性重視の構想設計

シーホース三河が中心となりアリーナ構想を設計し、単なるクラブ施設ではなく市民の利活用を前提に据えた設計思想を持つ。設計段階から公共性を重視し、民設民営の限界を超えた都市型施設づくりを推進

365日利用を前提とした多機能・多用途空間の創出

コンコースの広さや多目的室の配置、アリーナ外部空間の活用も含めて日常的な使い勝手に配慮。地域住民の生活動線に組み込まれることを重視

開かれたまちのハブとしての地域共生機能

イベント、ワークショップ、地域の子どもたちの交流機能などを備える。単なるスポーツ施設ではなく、世代や目的を超えた人の流れを生み出す新しい都市装置として機能させることを目指す

実現までの課題・失敗談

1.「アリーナ」そのものへの認知・理解度
アリーナ＝体育館という先入観、次世代アリーナに対する基礎知識の不足

2.地域のためのアリーナへのアクション
民設民営から公共所有に移行する過程での合意形成・ステークホルダー理解

3.まちづくりへの市民の巻き込み
特にクラブに興味がない市民をどのように巻き込んでいくのか

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ
クラブ主導による市民イベントの開催
ブースターの積極的参加

企業を巻き込むチカラ
地元企業・スポンサー企業のリソース活用

行政と共に突破するチカラ
包括連携協定に基づく相互連携の実現

現時点での成果

1.事業スキームの確定
日本初の民間所有地におけるスポーツ施設の負担付き寄附事業として、議会承認を取得

2.ワークショップへの市民参加
多様な属性の市民が参加し、アリーナを知り、考える機会を提供

3.新たな事業パートナーの醸成
アリーナを中心としたまちづくりへの共創パートナー、仲間づくりの実現

「建設・所有・運営」を分離しつつ、民間主導・行政支援のバランスを取る持続可能な公民連携スキーム

シーホース三河株式会社
代表取締役社長 寺部 康弘

- 建設費は民間が負担し、完成後は市へ寄附、運営は新設会社が担うという「三分離モデル」を採用。
- これにより、初期リスクを民間が引き受けつつ、公共施設としての地域還元性を担保し、長期的な行政支援・地域参画を実現

安城市役所
企画部 企画政策課 プロジェクト推進室

負担付き寄附の議決
安城市が負担付き寄附を受け入れる相当性について、専門家で構成される審議会を通じて調査・審議した上で、丁寧に議会説明を行い、議会承認を得た。

民間主導での資金調達・建設
三河安城交流拠点建設募金団体を通じて企業・個人寄附を募り、持続的な整備財源を確保。建設段階の自由度とスピードを確保した。

運営分離による柔軟性と民間創意
シーホース三河が中心となり、別法人の運営会社を設立予定。指定管理者兼運営権者（予定）となることでイベント企画・利用調整・収益最大化といった日々の運営判断を柔軟に行える体制を確立し、行政の意思決定スピードとの差を補完。

公民連携のポイント

- 人材連携
- 法制度・許認可
- 財源
- 土地の所有・管理
- 施設の所有・管理
- 運営方針
- 市民との合意形成
- リスク管理
- 広報・PR

地域のシンボルとなり、市民が誇りを持てる場所に
市民に愛されるアリーナとなるよう、計画段階から市民が関わることができる「つかいかたワークショップ」をクラブとともに開催し、市民のアリーナに対する意見、アリーナでしてもらいたい・やりたいアイデア、アリーナに期待すること等を集め、アリーナをジブンゴトとして考えることができる人が増えるよう努めました。

公民連携の先進事例となることを目指して
現在もスキーム検討の真っ最中ですが、負担付き寄附により公の施設となるため、地方自治法上の様々な制約や行政としてガバナンスを効かせなければならない面と、民間事業者にできる限りの裁量を与え、魅力ある施設を運営していくべきであるという相反する面でのジレンマがあり、最適解がどこにあるのか模索を続けています。

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課

- ✓ スポーツ
- ✓ 健康増進
- ✓ 都市計画

SAGAアリーナ
佐賀県

SAGAスポーツピラミッド構想 の推進

アリーナ開発にとどまらない エリアマネジメント によるまちづくり

佐賀バルーナーズとも連携し歩きたくなる ウォーカブル なまちづくりへの挑戦

BALLOONERS SAGA

歩こう。佐賀県。

SAGA SSP
always on your side

SAGA TOCO

#エリアマネジメント #健康増進 #まちなかウォーカブル

Keyword！

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

『SAGAスポーツピラミッド構想』（SSP構想）の実現

- アリーナ建設・国スポの開催をゴールとするだけでなく、SSP構想をまちづくりの中心に
- 佐賀県によるスポーツ振興の文脈に則り、SAGAアリーナを中心とした面的なエリアマネジメントまでを含めた連動性のあるハード整備を計画
- その一環で、ウォーカブル（歩きたくなる）なまちづくりから健康増進等へ施策を展開

ビジョンの実現に向けて

まちづくりの中心となる存在“県内プロスポーツチーム”との連携

- アリーナを、県民の活力、経済の好循環、まちづくりの中心と捉え事業を推進
- SAGAアリーナは「スポーツ・健康+エンターテイメント」を共通コンセプトとしている
- 佐賀市とも連携し、佐賀駅を中心に南北軸でゾーンニング。北側に「サンライズストリート」を形成

PoC

歩道の拡幅

- 佐賀市にて片側2車線であるアリーナへ向かう道路を片側1車線化し、歩道を拡幅することで歩きやすい環境を整備した
- 佐賀バルーナーズなどプロスポーツチームと連携したり、駅から歩いて約1Kmに「歩かないと撮れない映えスポット」を設置。歩くインセンティブとなる仕掛けづくり

事業開発

歩く楽しみ。歩く文化づくり

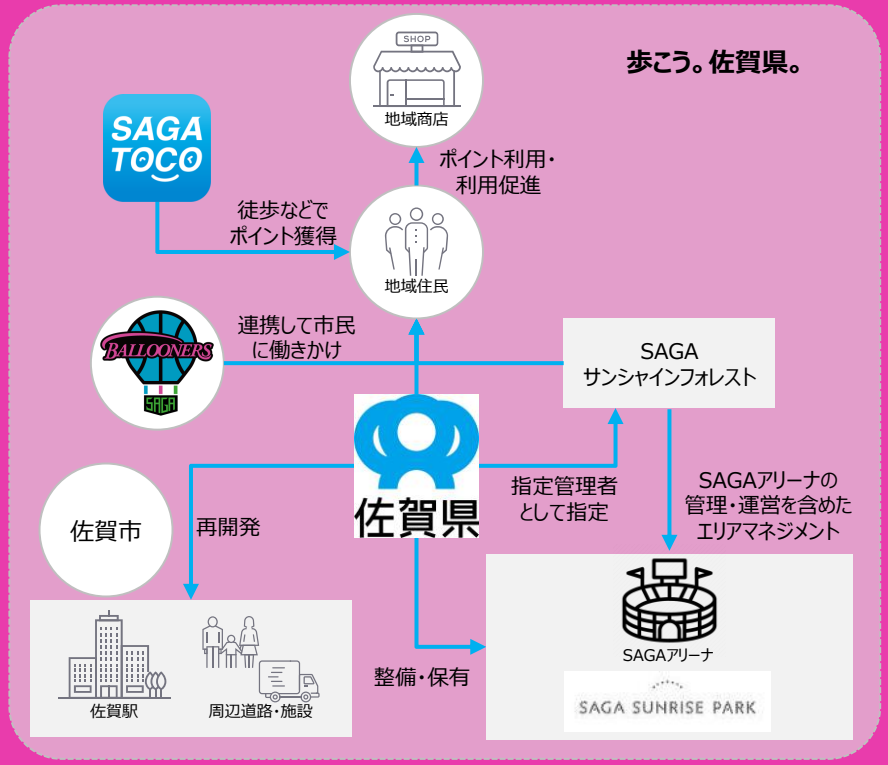
- 「歩こう。佐賀県。」に通じるSAGAサンライズパークストリートフェスタや、ビアフェス等のイベントの実施
- 佐賀市にて空き家を改修し、カフェ、トイレ、ショップ等の交流拠点を整備
- 公式ウォーキングアプリ「SAGATOCO」を通じたアクティビティにより獲得したポイントを県内の協力店にて利用可能

事業育成

発信力の強化

- SNSの活用やPVの作成
- 「歩こう。佐賀県。」シンポジウムの開催等による歩くライフスタイルの周知
- バルーナーズと協力した取り組みの実施による話題性

実施スキーム



施設概要

- **住所**：佐賀市日の出2丁目1番10号
- **Tel**：0952-32-4070
- **駐車場**：イベント参加者様用はなし

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

SSP構想に基づく大規模・長期的ビジョン
佐賀バルーナーズとも連携したまちづくりのグランドデザイン

SSP構想×Bクラブ

まちづくりの中心として、佐賀バルーナーズなどの県内クラブが活躍

施策展開時のクラブ連携により、地域に好循環を生んでいる

連動性のあるハード整備

歩くライフスタイルの形成に向け、片側2車線道路の一車線化及び歩道を広げた歩車分離のウォーカブルな環境の整備

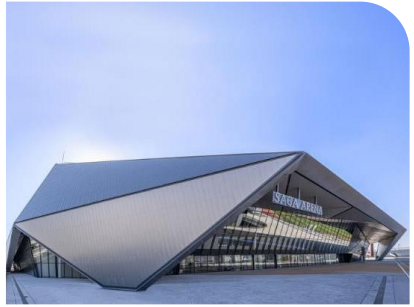
歩くライフスタイルの形成

車ではなく、徒歩や公共交通機関などを利用して来場してもらうべく、「アリーナ×歩く」事業を推進

実現までの課題・失敗談

1.駐車場ニーズの高さ
車社会のため、アリーナ開業直後はもちろんのこと現在も要望の声がある

2.飲食店・ホテルが少ない
サンライズストリート上に飲食店が少なく地元店の閉店時間が早い。宿泊できるホテルも少ないため、宿泊客による経済効果が最大化できていない



現時点での成果

1.魅力的なまちづくり
行きたい・住みたいエリアとして価値が向上。県外からの共感や感動が、佐賀県民の誇りに

2.付加価値増から税収増へ
佐賀駅周辺の地価が上昇。税収の増加し、更なるまちづくり事業への公共施策に繋がっている
※令和6年 公示地価、基準地価 情報

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

行政はアリーナと駅の間をウォーカブルな街として整備し、クラブはHPやSNSにて「歩く」について発信し続けることで、歩く文化づくりを創出

行政と共に突破するチカラ

SSP構想により佐賀県がまちづくりを先導。佐賀市とも連携して、都市開発を推進

SAGAスポーツピラミッド構想《SSP構想》

- 佐賀から世界に挑戦
- アスリートがスポーツで食べていける社会
- スポーツを活かしたビジネスシーンが広がる社会

SSP構想の推進

佐賀県は、スポーツの真の価値を大切にし、スポーツのチカラを活かした世界に誇れる人づくり、地域づくりを進める、「SAGAスポーツピラミッド構想」（SSP構想）を、官民一体で推進しています。

条例の制定

佐賀から世界に挑戦するアスリートを育成し、多くの県民が「する、観る、支える、育てる、稼ぐ」のそれぞれの関わり方で広くスポーツに携わり、アスリートがスポーツで食べていける社会、スポーツを活かしたビジネスシーンが広がる社会を目指しています。2025年3月には、「SAGAスポーツピラミッド構想推進条例」を制定しました。条例では、練習拠点を整備するにあたっては、競技の育成方針や大会・合宿の開催、スポーツビジネスにおける活用等の将来的な視点を持って、多角的に検討するよう明記しています。

公民連携のポイント

人材連携

法制度・許認可

財源

土地の所有・管理

施設の所有・管理

運営方針

市民との合意形成

リスク管理

広報・PR

アリーナ開幕後に街の姿が変化

SAGAアリーナもまさにこの思想の下、単なる巨大体育館ではなく、エンタメアリーナとして「観る」「稼ぐ」にこだわって整備し、これまでBリーグ、SVリーグなどスポーツシーンはもちろん、MICEやライブなどのエンタメなど多彩なイベントが開催されています。
SAGAアリーナ開業後は、最寄りの佐賀駅からアリーナまでの人の流れや、大勢のファン・家族連れが飲食を楽しみながら交流する姿など、街の姿も大きく変化しています。

新しいスポーツシーンの創造

SSP構想の下、アリーナが地域経済を回し、そこで生まれた収益が、中高生アスリートの育成や、社会人アスリートのセカンドキャリア支援に回るような仕組み構築するなど、佐賀から新しいスポーツシーンを創造しています。

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課
- ✓ 商工観光
- ✓ 商店街
- ✓ 公共交通

キングス商店街
琉球ゴールデンキングス

沖縄サントリーアリーナの開業に合わせ、沖縄市の **商店街** へ相互送客

"キングスを応援したい"、"沖縄市を盛り上げたい"という **応援文化の日常化**

シャトルバス運行 により **来街者回遊** を促し、商店街全体でクラブを応援

コラボスタンプラリー
- キングスファンを商店街へ誘導

ユニフォームを着用
- 商店街全体で応援する雰囲気を醸成

商店街にのぼりやちょうちんを設置
- 商店街の活気を高め、地域の方が立ち寄りやすい空間を作る

Keyword！ #商店街活性化 #シャトルバス #回遊 #まちなかウォーカブル

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

『通りすがりの街』に人流と賑わいを生み商店街を再生

- 空港や他の観光地に比べ観光訪問者数が少なく、消費も限定的
- さらに、車社会のため地域消費も少なく商店街が衰退化。空き店舗が増えた
- 熱狂的ファンベースとキングスのアイコン力より、商店街活性化に寄与

ビジョンの構築・共有

キングス商店街のはじまり～コザの街を元気に～

① 「見る街・買う街・憩いの街」としてにぎわいを創出
② 店舗従業員がキングスのユニフォームを着用し、商店街全体で応援する雰囲気を醸成
③ ホームだけでなくアウェイファンも巻き込んだ新たな交流や友情を育む場づくり

PoC

シャトルバスの運行～アリーナと街を結ぶ絆～

- 沖縄市の中心市街地からアリーナまでシャトルバスを運行。
  車と人を停めさせて街に人を流す試み
- キングスからオリジナルのちょうちんが商店街に贈呈され、通りを明るく照らすことで、
  訪問者にとって親しみやすい雰囲気を醸成
- 飲食店の従業員にオリジナル背番号のユニフォームを配布。店舗間の繋がりも強くした

事業開発

にぎわい創出に向けた支援

- 「Enjoy Okinawa City Day」や「キングス商店街ナイト」といったイベントを開催し、
  試合観戦後の来場者が商店街を訪れ機会を作り、消費活動を促進
- 琉球ゴールデンキングスの優勝を祝うパレードを開催し、ファンや地域住民の参加を促進
- 活性化を目的にブランドを提供し、商店街とのコラボレーション企画の実施

事業育成

交通課題も解決

- 交通渋滞の緩和や、迷惑駐車の防止にも効果が出ている

発信力の強化

- メディア意識。話題性追求

実施スキーム

施設概要

- **住所**：沖縄県沖縄市中央（コザ地区）
- **アクセス**：那覇空港から車で40分
- **最寄りバス停**：「ミュージックタウン前」「BCコザ(市立図書館前)」

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

アリーナ来場者の試合前後の消費活動を促進することで経済振興を図る

日常の賑わいを繋ぐ回遊性の創出

試合開催日に、商店街イベントを実施
アリーナ来場者を商店街へ回遊させ、地域経済への波及効果を最大にする

クラブと地域の強い一体感を醸成

お店の従業員がキングスのオリジナル背番号入りのユニフォームを着て働く
商店街全体で応援する雰囲気を醸成

地域密着から地域愛着

商店街にのぼりや、ちょうちんを設置することで活気が高まり
新たな店舗間の繋がりも生まれた

実現までの課題・失敗談

1.観光地としてイメージアップ
観光客に訪れてもらう観光地としては、ハードルが高く、街の認知度の向上が必要だった。
提灯やユニフォーム着用で活気が生まれた

2.店舗間での繋がりも希薄に
一時期空き店舗が増えたこともあり、情報共有の手段や場がなくなった。
”キングスの応援”やを通じて商店街が一つに

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

試合日のシャトルバスの発着所を、商店街周辺とすることで、ファンの相互送客を実現

企業を巻き込むチカラ

各飲食店との連携により、商店街全体に賑わいを生む地域活性化モデル

現時点での成果

1.商店街活性化への寄与・集客増加
地域全体の活性化が促進され、商店街のにぎわい創出や各店舗の売上向上
2.商店街の雰囲気向上
商店街の活気が高まり、訪問者にとって親しみやすい雰囲気が醸成
3.優勝パレードに2万人が集う
優勝パレードを商店街連合が主催。コザ商店街でのパレードで歓喜がわいた

キングス商店街で沖縄市の魅力を体感

琉球ゴールデンキングス
ブランディング部門 責任者
喜屋武 裕乃（きゃん ひろの）様

コザ商店街連合会　事務局
親川　雅也　様

地域と取り組む「まちづくり」

沖縄市の街が盛り上がっていない現状に課題をすごく感じており、試合に訪れた人々を、どうやってこの街に流し、地域を活かしていくかがポイントだと考えました。

2021年に沖縄サントリーアリーナの開業に合わせて、ホームタウン沖縄市の中心市街地にある商店街で、“キングスを応援したい”、“沖縄市を盛り上げたい”という思いで結成された「キングス商店街」の皆さまと共に地域の活性化を目指す取り組みを行い、これまで以上に“まちづくり”に注力しています。

アリーナと地域を結ぶ“無料シャトルバス”

ホームゲーム日に「無料シャトルバス」を運行させ、発着地を、ホームタウン沖縄市の中心市街地に設置しています。これは、アリーナ来場者の試合前後に商店街での消費活動を促進することで地域の経済振興を図る狙いがあり、同時にアリーナ周辺での交通渋滞を避ける工夫や、迷惑駐車の防止にも積極的に取り組んでいます。

他にも、優勝パレード時やシーズン報告会などでは、キングスの選手が商店街を練り歩き、店舗の皆さんとお客さんを繋いだりと、キングスの大切な理念でもある「沖縄をもっと元気に！」を体現する一丁目一番地の活動を行っています。

公民連携のポイント

人材連携

法制度・許認可

財源

土地の所有・管理

施設の所有・管理

運営方針

市民との合意形成

リスク管理

広報・PR

キングス商店街のはじまり

沖縄市へ観光で初めて訪れる方々に、コザ商店街に足を運んでもらうには、少しハードルが高かったので、キングスと連携することで、まずは「試合がある日」に来てもらって、試合が無い日でも来てくれるような流れを作りたいと思っていました。 店舗のスタッフさんや店長さん、皆さん面白い方が多いので、来たら結構ハマっていて、一度訪れると地元の温かさや優しさに触れることで、いい意味で“コザ中毒”になって帰っていきますね。

商店街内の絆も深めたオリジナルユニフォーム

最近だと一時期空き店舗が増えた時期でもあり、回覧板などもなかったので、店舗それぞれで情報共有していることがなく、関係が希薄になっていました。

キングスから背番号入りのオリジナルユニフォームをもらい“キングス商店街”の取組が始まったことで、店舗同士でコミュニケーションが取れるようになり、以前よりも町を盛り上げようという機運だったりとか、あとは実際に行動を起こしたりすることができるようになったので、キングスをより身近に感じ、アリーナができたことによって、今僕たちにとってはとてもプラスになっています。

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課

- ✓ スポーツ
- ✓ 学校教育
- ✓ 生涯学習

プロスポーツ観戦で、子どもたちの夢を育む一日

長野市と信州ブレイブウォリアーズが連携

市内の小・中学生約5,000人が 学校活動の一環 として試合観戦

オリンピックレガシー施設での、感動観戦体験 を地元企業と応援

プロバスケ観戦

多様なスポーツ体験

選手交流

地元企業の職業体験

キッズドリームデー
長野市

Keyword！ #小中学生 #体験学習 #スポーツ観戦

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

五輪開催都市としてのレガシー・DNAが継承されていない

- 長野五輪世代と未経験世代とで、スポーツ理解や愛着に対してギャップが広がりつつある
- レガシー施設での「上質な観戦体験」を経験したことのない子どもたちが増えてきた
- 五輪開催都市（長野市）ならではの感動を、地域世代間で共有できていないのではないか

ビジョンの構築・共有

スポーツを通じて子どもたちの夢や地域への愛着を育む

① 地域の一体感と愛着の醸成
② 子どもたちの夢の芽生えと育成
③ 1998年長野五輪のレガシー継承と、元五輪金メダリストの荻原市長のスポーツ政策ビジョンに基づく都市像形成

PoC

子どもたちの安全確保や多様な体験機会の提供を実現

- 初回は2024年2月7日、4,765名が参加
  L長野五輪の開会式日に併せて、市でバス100台を準備
- 観戦・交流・体験の3要素を包括
- 学校関係者・保護者から高評価

事業開発

開催回数の増加や体験ブースの充実、協賛企業の拡大により、地域全体での取り組みに発展

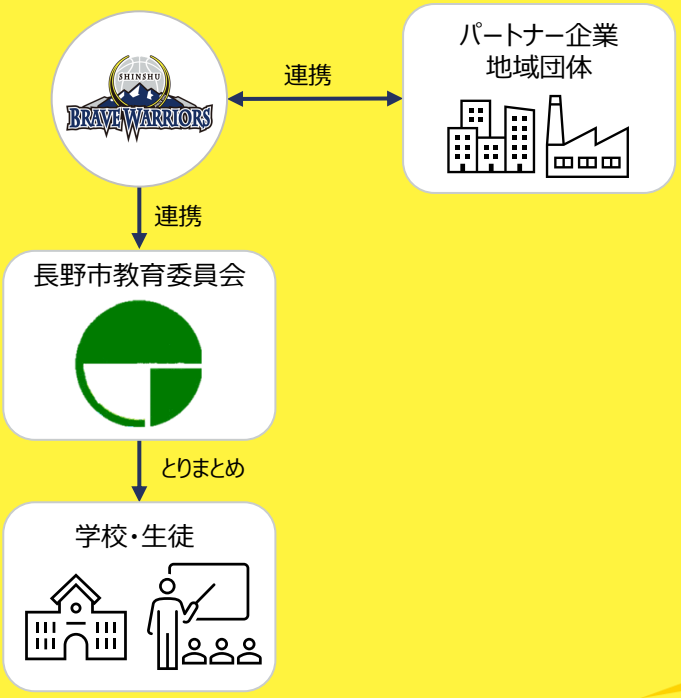
- 令和6年度（2024-2025年）は、年2回に拡大
- スポーツ体験・企業ブース拡充
- 参加者フィードバックで内容改善

事業育成

地域全体への展開や、キャリア教育等のカリキュラムも組み込み、持続可能な運営体制の構築

- 教育的意義が高まり、職業体験やキャリア教育にも広がりを見せている
- 官民協働の継続体制を構築

実施スキーム



実施概要

- **会場**：ホワイトリング（長野市）
- **参加費**：無料（学校単位参加）
- **対象**：長野市内の小・中学生

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

Bリーグ初の平日昼間開催と市内全校観戦による地域教育連携モデル

Bリーグ初の平日昼間ホームゲーム開催

常夜間開催が基本のBリーグにおいて、子どもたちの参加しやすさを重視し、平日昼間（13:30試合開始）に試合を開催。リーグの理解と調整を得て実現された
全国初の事例

観戦・応援・競技体験の一体化設計

応援グッズ配布や試合観戦に加え、ハーフタイムでのフリースロー体験、モルックやボッチャ体験ブースを設置。

観る・参加する・応援するという多層的な体験機会を創出

長野市のスポーツ教育ビジョンと連動

1998年長野五輪レガシー継承を目的に長野市が推進してきた学校観戦事業の一環として、ウォリアーズとの連携が制度化。長野市の教育政策の中核として位置づけられている。

実現までの課題・失敗談

1.試合時間の調整
通常リーグ試合時間は夜のため、平日昼間開催にあたり、Bリーグと調整が必要だった
2.学校教育現場との調整
試合時間が、給食や下校時間と重なるため、スムーズに観戦するための導線計画や時間設定等が必要となった
3.地域で支える仕組みづくり
補助金や助成金ではなく、協賛や寄付等での運営を目指したが、初回は思うように集まらなかった

B.CLUBが発揮するチカラ

企業を巻き込むチカラ
活動に共感する地元企業が多数協賛。子どもたちの観戦機会を地域全体で支援

行政と共に突破するチカラ
教育委員会と密接な連携により、大規模事業を実現。いくつもの課題を乗り越えた

現時点での成果

1.バスケが驚異的な人気に
ミニバス（スポーツ少年団）の人数が、20人から40人に増え、競技普及に貢献している
2. 良質な教育プログラム
選手の学校訪問や専用のパンフレット等により、子どもたちは事前にルールや応援方法を学習。ルールを学び実践する社会学習の場にもなる
3.持続可能な長野市モデル
2年目には、活動の意義がより認められ、企業ブースの数も増え協賛や、企業版ふるさと納税等の支援も得られるようになった

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課
- ✓ スポーツ
- ✓ 学校教育
- ✓ 生涯学習

みらいハッ！ケンプロジェクト
長野市

長野オリンピックに掲げた 「子どもたちの参加」 を体現

全ての小中学生に、3万円分の **電子ポイント** を配布

未来に向けた **体験や学び** へのチャレンジを、まち全体で応援！

SHINSHU BRAVE WARRIORS

みらいハッ！ケンプロジェクトとは？

自己肯定感 を育む 体験 と 学び の機会を

対象者
長野市内在住の
小1〜中3生

ポイント付与額
電子ポイント
¥30,000分

利用期間
2025年4月7日〜

Keyword！ #小中学生 #キャリア教育 #電子ポイント #地域QOLの向上

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

本物の体験を通じ、子どもたちの未来に繋ぐ

- 所得や環境により体験機会が限られていた
- 自分の得意・好きがわからず自信を持てない子が多い
- 地域の大人や活動との接点が少ない

ビジョンの構築・共有

すべての子どもが多様な体験を通じて、自分らしさと夢を見つけられるまち

① 子どもが主体的に体験を選び、挑戦する文化を育む
② 民間・地域資源を活用したまちぐるみの育成体制
③ オリンピックレガシーやプロスポーツクラブとの連携による共育環境の形成

PoC

2023年度に試行実施し、制度設計と利用支援体制を検証

- 小中学生全員に1万円分ポイントを支給
- 利用率63%、スポーツ体験も多数
- 地域コーディネーター導入で利用サポートを強化

事業開発

2024年度から本格展開、制度を拡充

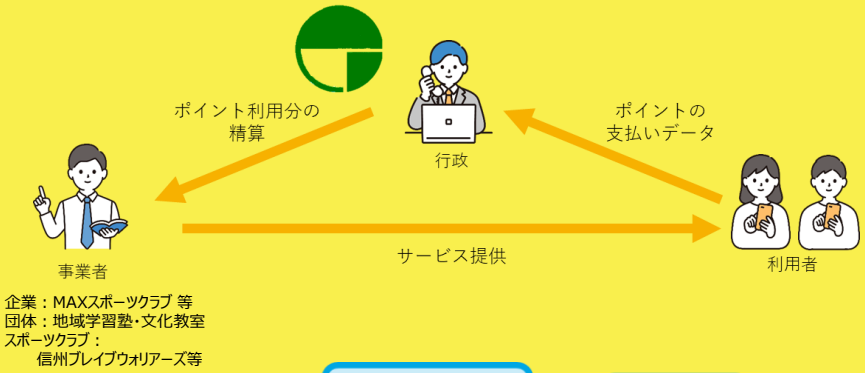
- ポイント額を3万円に増額し通年実施へ
- プログラム提供者（地元企業）との連携を強化
- 体験プログラム（単発型）477種、習い事（継続型）685種に利用可能

事業育成

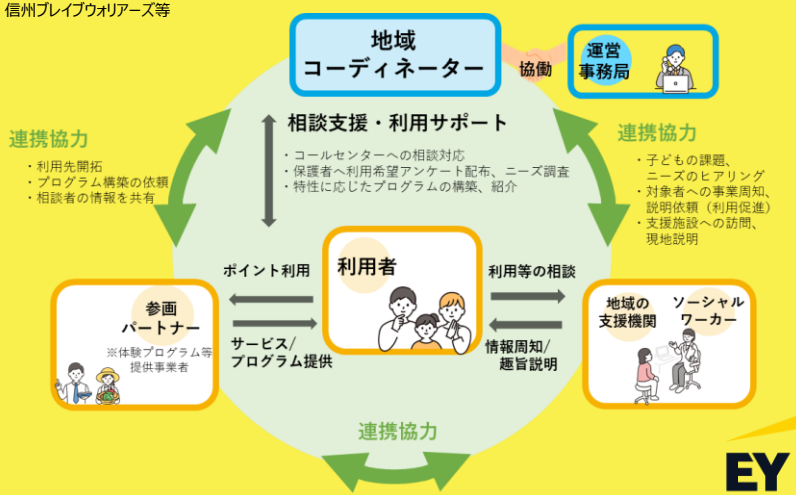
部活動の地域移行の受け皿となるスクールでも使用可

- 信州ブレイブウォーリアーズが地元中学生を対象とする活動も対象
- 地域移行を見据え、全13件の各種プロスポーツチームのスクールも対象
- 体験型の「試合観戦プログラム」として、チケットやグッズがセットも提供

実施スキーム



企業：MAXスポーツクラブ 等
団体：地域学習塾・文化教室
スポーツクラブ：
信州ブレイブウォリアーズ等



EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

子ども一人ひとりの個性と興味に寄り添った体験支援の全国モデル

普遍的かつ包括的な支援設計

すべての小中学生に3万円分のポイントを配布。

多様なプログラムを提供しており、子どもたちが自らの「好き」や「得意」を見つける上質な体験や学びの機会を平等に提供

多様な体験と地域資源の活用

地域企業と連携して、全1,162種もの豊富なプログラムを用意。

信州ブレイブウォリアーズなどのプロスポーツチームの各種スクールも対象となり、将来的な「部活動の地域移行」も見据える

地域コーディネーターによる伴走支援

NPO職員や教育福祉分野の専門人材で構成され、保護者・学校・プログラム提供者との橋渡し役を担う。情報格差の解消や利用支援に加え、多様な背景の子どもにも対応できる体制を整備

実現までの課題・失敗談

1.みらいハッ！ケンプロジェクトの周知
情報格差により、制度の存在を十分に理解していない家庭への浸透に課題

2.地域事業者・企業への周知
一部の体験提供事業者にとって、制度への参加に必要な準備や手続きが負担に

3.プログラムの多様性
特別な配慮が必要な子どもたちに向けた体験プログラムが初期段階では十分に整備されていなかった

B.CLUBが発揮するチカラ

企業を巻き込むチカラ

多様なプログラムを準備する過程で、地域企業と連携。子どもたちの未来を育む

行政と共に突破するチカラ

教育分野における行政連携。部活動の地域移行も見据えるクラブとの共同事業

現時点での成果

1.多くの子どもの挑戦を応援できた
初年度が46.8%だったが、R6年度は67.9%まで利用率を伸ばし、広く使われる制度となった

2.部活動の地域展開にも貢献
スポーツや自然体験など、官民、地域を挙げて様々な分野での体験プログラムや習い事を提供。部活動の地域展開にも利用可能で、事業推進にも貢献している

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課

- ✓ 市民協働
- ✓ まちづくり
- ✓ 広報

ベルテックス静岡が主催する、市民・学生・行政が参加する **対話型ワークショップ**

地域の未来像を共に考え、実現に向けたアクションを生み出す

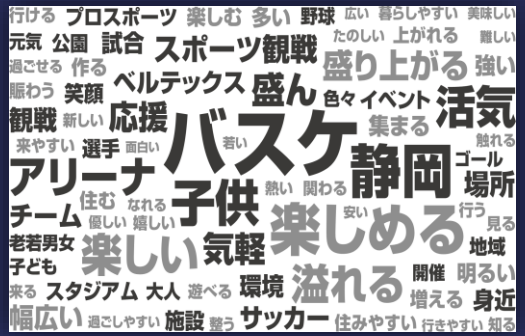
クラブが中間支援的な立場を担い、**地域社会と若者を結び市民参画** を促す

静岡の未来を共に描く、
対話と共創のプラットフォーム

THINK SHIZUOKA
ベルテックス静岡

VELTEX SHIZUOKA

VOICE



Keyword！ #対話 #ワークショップ #世代交流 #コミュニティ・交流拠点

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

「スポーツで、日本一ワクワクする街へ」静岡の未来を語る

- 世代や所属を超えて「人づくり、街づくり、夢づくり」を意見交換
- 静岡の未来の数字。人口減少に向かう地域課題の共有
- この街のあるべき未来を、みんなで考えるきっかけの場。みんなの声が原動力に

ビジョンの構築・共有

“THINK SHIZUOKA”発 みんなの声が、やがてこの街を変えていく

① スポーツには、人々の心を動かす力がある
② スポーツには、地域の誇りをひとつにする力がある
③ スポーツが持つ熱狂感と一体感を軸に、この街の未来をより良くしたい

PoC

市民参加型のワークショップを通じて、地域課題の共有と解決策の検討

- ワークショップの開催
- 10代から60代、計40名の多世代が参加
- 「健康・食」、「教育」、「エンターテイメント・スポーツ」、「観光」、「仕事」と5つのテーマに沿って意見交換

事業開発

市民が継続的にまちづくりに参画できる仕組みを構築

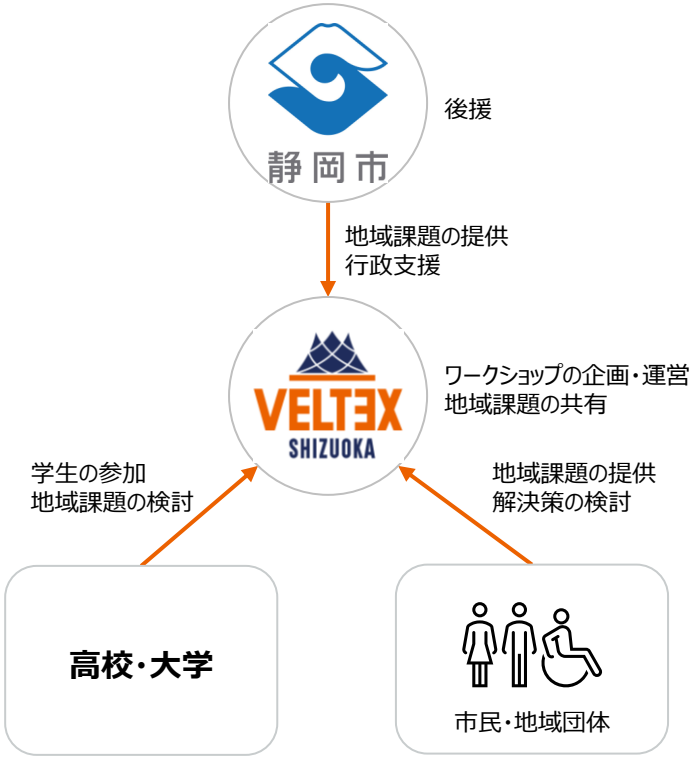
- 継続的な対話の場の提供
- 富士市立高校や静岡英和学院大学等の学生主催型のワークショップ開催
- 高校生や大学生25人が、静岡市長に提言を報告。若者のまちづくり参画機会に

事業育成

市民の主体的な活動を支援し、地域課題の解決に向けた具体的なプロジェクトを展開

- 市民提案型プロジェクトの支援
- 成果の可視化と共有
- ネットワークの拡大

実施スキーム



実施概要

- **場所**：静岡市内（例：グランシップ）
- **対象**：静岡市民、学生、地域団体
- **内容**：ワークショップ開催、アンケート調査、地域課題の共有と解決策の検討

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

地域共創を支える中間支援機能として、
スポーツクラブが多様な立場の市民と未来を語り合う場を提供

「対話と共創」を重視。ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ主導の社会課題対話ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ

ベルテックス静岡が、地域課題を共に考えるファシリテーターとして場づくり開かれた対話機会が、市民・行政・企業を巻き込み、地域に新たな希望を生み出す

学生・若者の参画を重視した設計

富士市立高等学校や静岡英和学院大学とも連携。学生を積極的にワークショップの参加者として迎え入れる体制を構築から、若者視点の提案と次世代のまちづくり担い手育成にもつながっている

「求心力」を活かした幅広い巻き込み

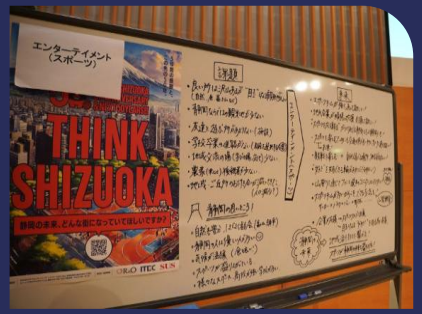
静岡市教育委員会や静岡商工会議所、静岡青年会議所の後援を受けるなど、地域と連携した共創モデルを構築

参加者の年齢層も10代から60代と、幅広い世代の意見交換が実現

実現までの課題・失敗談

1.チャレンジングな試み
まちづくり事業に取り組む初の試みだったので、アウトプットイメージ共有化など事業化に至るまで時間を要した

2.公共を支える企業が連携
協力者や協力企業を募るため各ステークホルダーに細かな説明を行った。多くの地元企業の協力を得たことで事業推進が加速した



B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

市民、学生、行政など多様な主体を、クラブの求心力で募集。多世代の対話を実現

行政と共に突破するチカラ

静岡市とも連携。市長にも提言を報告するなど、市民のまちづくり参画にも貢献した

現時点での成果

1. 多世代の対話が実現
10~60代の計40名が、静岡の未来について意見交換する貴重な場づくりに

2. ワークショップの継続開催
学生がファシリテーターを務める形式での開催など、若者の参画意識が高まった

3. まちづくりの当事者意識
意見交換内容を市長へ提言するなど、まちづくりへの主体的な参画意識が醸成

B.LEAGUE×まちづくり

おすすめ
行政課
✓ スポーツ
✓ 都市計画
✓ 公園

東静岡アート&スポーツ／ヒロバ　管理・企画運営
ベルテックス静岡

東静岡アート&スポーツ／ヒロバ実行委員会から、管理・企画運営業務を委託

アートやアーバンスポーツ 通じた、地域における多様な効果の創出

行政・地域・スポーツクラブが連携した 公的空間の利活用 モデル

VELTEX SHIZUOKA

静岡市

屋内スペース

屋外スペース

芝生公園

art@東静岡

Keyword！ #アート #スケートボード #若者文化 #コミュニティ・交流拠点

© B.LEAGUE

ビジョンの仮説構築

東静岡駅周辺の公共空間に、若い世代が集う場所や、住民同士の新たな賑わいを生みたい

- 駅前公共空間の利活用のトライアル
- 若者を中心とした東静岡地区における賑わい拠点化
- スポーツ・アートに触れる日常的な環境づくりの必要性

ビジョンの構築・共有

公共空間の活用を通じて、市民が日常的に集い、交流し、創造するまちの姿を目指す

① 地域に開かれた賑わい拠点の形成
② アート・スポーツの文化としての定着
③ 多世代・多属性が交流できる場の創出

PoC

ヒロバの利活用にあたり、利用可能性と市民ニーズを把握する実証的取り組みを段階的に実施

- スポーツ体験プログラムの無料実施
- アートイベントやキッチンカー導入
- 参加者アンケートによる改善策検討

事業開発

実証を経て、継続的・自走的な空間活用のスキームを整備

- スケートボード・BMX・インラインスケートが屋内外で楽しめる
- 世界基準のセクションや有償イベント、貸出収益の導入による運営持続性確保
- 芝生広場では、市民の憩いの場としてアート普及等定期ていなイベントを開催

事業育成

事業の多様化とヒロバの定着を図り、住民と共に育てる場へと展開

- 隣接運営する「VELTIRO」との一体利用・相互送客
- 開放的なテラスに設置している、3on3コートなどによる更なるストリート文化の融合
- スポーツ・アート・観光・飲食・教育など複数分野を横断する継続的な賑わい創出と知見蓄積

実施スキーム

施設概要

- **住所**：静岡県静岡市静岡市葵区東静岡一丁目3番-76
  JR東静岡駅北口すぐ
- **営業時間**：11：00～21：00
- **Tel**：054-294-7100

EY
Shape the future with confidence

EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社はB.LEAGUE×まちづくり委員会の事務局業務および事例集制作業務の一部をご支援しました。

特徴

行政とスポーツクラブが将来を見据え、市民の日常に開かれた公共空間を創出

行政と民間による賑わいづくりの実験

静岡市が整備したヒロバを、クラブが管理・企画運営。

行政と民間が連携し、戦略的にエリア全体の賑わいを見極める好事例となった

東静岡駅前から若者文化を世界へ

スケートボードやBMX、インラインスケート等を屋内外で体験が可能。

身近に世界基準のスケートランプが利用できるなど、若者がチャレンジできる環境を提供

スポーツのみならずアートや食も楽しめる複合施設

芝生広場では、「スポーツ×食」やアート普及など、多様なイベントを実施

「VELTIRO」まで一体利用することで、様々な世代で賑わう憩いの交流の場となっている

実現までの課題・失敗談

1．施設運営の課題

ヒロバの安全性・騒音などに対する地域の懸念。季節・天候に左右されやすく利用率の波などが運営の課題となった

2．暫定土地活用の課題

あくまでも暫定利用ため、設備投資等には影響があった。一方で多様なイベントを実施することができ賑わいを生み出せた

B.CLUBが発揮するチカラ

ヒトを動かすチカラ

アート、アーバンスポーツ、食など、クラブがハブになり複合化。多世代交流拠点を実現

行政と共に突破するチカラ

公共空間の賑わい創出を、行政と民間で取り組むことで街の魅力をさらに高めた

現時点での成果

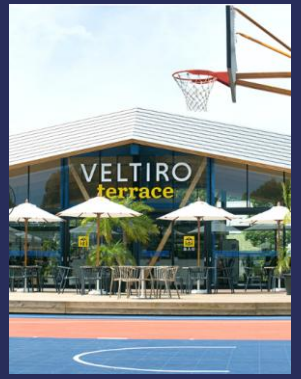
1．利用者が飛躍的に増加

オープン当時の利用者が、約1万7千人だったが、令和5年度には、約2万7千人となった。若者のみならず多くの利用者が訪れた

2．多様な賑わいづくりの実験

年間約100本を超える多目的イベントの開催。「VELTIRO」との連携により、日常的に若者が利用し集まる施設となった

※　東静岡アート＆スポーツ／ヒロバは、アリーナ整備に伴い、令和7年9月末日で閉鎖する



THANK YOU.